

教育活動の実績 —高田短期大学—

時代・社会の変化に即応した取り組み

1 学士力向上を目指した教育課程の展開

学生の主体的・自律的な自己評価充実に向けて

「ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）」で示した「共通到達目標（全学的学修成果）」に到達できるよう、「履修マップ」、「ルーブリック評価」等のツールを積極的に活用し、一部の科目においては学生自らが成果を点検し評価できる充実した自己評価サイクルを示すことができました。

オンライン授業環境の整備（教育支援システムの活用）

新型コロナウイルス感染症拡大に端を発したオンライン授業環境を整備し活用することで、感染拡大期、縮小期に関わらず、継続して能動的な学修力の向上を目指せる環境づくりを推進しました。教育支援システム「manaba」を利用し、各教員からの資料の提示、授業グループによる質疑応答、課題の提供などを行い、学外においても学修を継続できる授業環境が整いました。

2 主体性・協調性を育む短大生活支援

(1) 新入生研修

日時 4月22日（金）

会場（子ども学科） 本学

（キャリア育成学科） COCOPA RESORT CLUB

白山ヴィレッジゴルフコース（津市白山町川口6262）

研修内容 新入生研修をとおして、短大生としての自覚・自立心および協調性を養うとともに、学生・教職員相互の理解と親睦を深めることにより、今後の短大生活をより有意義に送れるようにすることを目的としています。今年度は昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染防止のため宿泊は行わず、会場も密を避けるため学科ごとに別会場での実施となりました。



(2) 学生自治会主催イベント

本学伝統の自治会活動では、2年生の執行部役員に加え、1年生から学生自治会サポートメンバーを募り、各学生が自らの役割を考えて行動し、課題を解決していく「異学年共同コミュニティ」の形成を目指しています。自治会活動を教職員が支え、年間を通して種々の行事を企画していますが、今年度は昨年引き続きコロナ禍により中止や縮小となる行事もありました。

① TJC祭（スポーツ大会）

日時 5月14日（土）

場所 本学体育館

内容 新入生歓迎および学生の親睦を深めることを目的に開催しました。スポーツを行うには最適な時期で約80名の学生が集まり、自治会役員や教職員とともに競技に参加しました。



② 学生自治会主催 抽選会

日 時 7月25日(月)・12月26日(月)

場 所 1号館4階講堂

内 容 学内コンビニおよび笑旨XXと連携し、学内で買い物をした学生を対象に学生自治会が抽選会を行いました。



③ 第56回高短祭

日 時 10月22日(土)・23日(日)

場 所 本学

内 容 新型コロナウイルスの影響が残る中、初日は午前中のみ、二日目は午後のみとし、外部公開は行わず在学生と教職員のみで開催しました。



(3) 学長と学生自治会執行役員との懇談会

日 時 8月4日(木) 10:40～

場 所 第4会議室

出席者 梅林学長、執行委員11名、教職員9名

内 容 学生との意見交換や、学生からの要望等の聴き取りを行い、改善策について検討しました。

1) 高短祭について

2) 学業及び学生生活全般に関する意見交換

(4) 白い小箱贈呈式

日 時 9月20日(火) 13:00～

場 所 本学

出席者 三重県厚生事業団

自治会執行委員2名、教職員4名

内 容 卒業生が本学に残してくれた白い小箱(災害用備蓄品)を厚生事業団へ寄付しました。この寄付した白い小箱は、厚生事業団を通じ福祉施設等へ届けられ、避難訓練や万が一の場合の備蓄品として使用されます。



3 キャリア教育・キャリア支援の充実

キャリア教育の推進

各学科・コースの特色に応じて、教養科目・専門科目の各授業と就職ガイダンス、プレ就職講座、就職講座を関連づけ、キャリア教育を推進しています。

2022年度 入学生 (1年生)	子ども学科	就職ガイダンス	3回実施
		キャリアスタディ	8回実施
	キャリア育成学科		
	オフィスワークコース	プレ就職講座	2回実施、就職講座 7回実施
	介護福祉コース	プレ就職講座	1回実施、就職講座 3回実施
2021年度 入学生 (2年生)	子ども学科	就職講座	4回実施
	キャリア育成学科		
	オフィスワークコース	就職講座	4回実施 (コースフォローアップ講座、就職前講座を含む)
	介護福祉コース	就職講座	4回実施

公務員試験対策

(1) 教養試験対策講座 (受講者数) () 内は内数で事務

	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
1年生	83(5)人	80(3)人	130(20)人	145(7)人	85(9)人
2年生	46(1)人	53(2)人	32(2)人	52(1)人	77(2)人

※2022年度入学生(1年生)は、9月7日(水)から令和5年3月10日(金)まで21回実施
2021年度入学生(2年生)は、4月21日(木)から7月5日(火)まで12回実施

(2) 保育専門対策講座

2年生 3月22日(火)～3月28日(月)：計9回実施(令和3年度実施)

1年生 12月6日(火)～令和5年2月28日(火)：計8回実施

(3) 数学対策講座 2年生(4月～計6回実施)、1年生(9月～計24回実施)

(4) 公務員試験保育専門分野に関する勉強会

(5) 市町別公務員二次・三次対策講座(四日市市、松阪市、鈴鹿市)、他、随時個別対応



学生への就職支援

キャリア支援センターには、キャリアカウンセラー1名、キャリアサポーター4名が配置され、センター長と庶務担当を合わせて総勢7名の職員が、学生の進路相談や就職活動などについてきめ細やかな支援を行っています。



卒業生への支援と早期離職の防止対策

生涯キャリア支援を旗印に、離職したり、仕事上の悩みなどで相談に来たりする卒業生に対して、卒業後も継続して支援を行っています。早期離職防止対策については、令和5年2月20日(月)、各学科コース別の就職前講座で指導しました。

「キャリアカルテ」の活用等による協働型キャリア支援の推進

毎月1回（年13回）、キャリア支援委員会を開催して、各学科コースとキャリア支援センターの教職員が、一人ひとりの学生に対するキャリア支援のあり方について協議しています。また、日常的には就職支援システム「キャリアカルテ」を核とした「高短キャンパスネット」(Web)を活用して、教職員間の情報共有と意思疎通を図っています。

4 学生募集と高大交流事業

(1) 高大教育交流事業

今年度の交流事業の実施回数は下記のとおりです。

- | | |
|---|--------------|
| ① 出張ガイダンス（協定校へ出向いて学校ガイダンスを行う） | 67回（17校） |
| ② 出前（模擬）授業（協定校へ出向いて出前授業を行う） | 18回（9校・23講座） |
| ③ 特別授業・授業見学・施設見学など
（本学の授業に出席、本学の施設・設備見学） | 6回（5校・10講座） |



(2) 高大教育交流連絡協議会

令和5年2月24日（金）に、令和4年度高大教育交流連絡協議会を開催し、三重県内の「高大教育交流協定校」等17校と本学教職員が参加しました。本学から入試結果や進路状況などを報告したほか、野呂教授による講演を行いました。また、各高校の教員と本学教職員とでグループワークを実施し、情報共有や意見交換を行うなど、交流を深めました。

(3) オープンキャンパス実施結果

① 日時

- | | | |
|-----|--------------|-------------------------|
| 第1回 | 6月4日（土） | 13:00～16:00 |
| 第2回 | 7月10日（日） | 13:00～16:00 |
| 第3回 | 8月6日（土） | 13:00～16:00 |
| 第4回 | 8月21日（日） | 13:00～16:00 |
| 第5回 | 10月29日（土） | 13:00～15:00（キャリア育成学科のみ） |
| 第6回 | 12月18日（日） | 13:00～15:00 |
| 第7回 | 令和5年3月12日（日） | 13:00～16:00 |

※子ども学科ミニオープンキャンパス

- | | | | |
|----------|-------------|-----|-----|
| 7月26日（火） | 13:00～15:30 | 参加者 | 11名 |
| 7月29日（金） | 13:00～15:30 | 参加者 | 19名 |

※留学生オープンキャンパス

- | | | | |
|-----------|-------------|-----|----|
| 10月26日（水） | 12:30～14:30 | 参加者 | 7名 |
|-----------|-------------|-----|----|

② 参加者数

	6/4	7/10	8/6	8/21	10/29	12/18	R5. 3/12	合計
子ども学科	76	80	135	125	—	30	54	500
キャリア育成学科 オフィスワークコース	16	30	63	41	3	4	11	168
キャリア育成学科 介護福祉コース	6	18 (留学生 5名)	23	9	4 (留学生 1名)	7 (留学生 7名)	10	77
合 計	98	128	221	175	7	41	75	745

③ 実施スケジュール

13:00～13:30 全体説明会

13:30～終了まで 学科・コース説明会、体験授業、各種相談



5 外国人留学生支援について

留学生のビザ更新に関する情報、奨学金など金銭面支援の状況、納税及び社会保険料などの支払いに関する情報、日本語能力検定試験など学習状況について、外国人留学生支援室内での情報の共有を図っています。

(1) 外国人留学生支援室による在留期間更新の取次申請手続き

9月末までに1年生16名の対応を行い、在留資格更新不許可者を出さずに無事に手続きが行えました。

(2) 留学生ミーティングの実施

留学生と留学生支援室とのミーティング、ガイダンスを次の日程で実施しました。

4月5日(火)1年生、4月21日(木)1年生、4月26日(火)2年生、

7月26日(火)1・2年生、10月26日(水)1年生、10月27日(木)2年生

(3) 授業内での日本語支援

介護福祉コースの授業に2人の日本語補助員を配置し、介護や医療の専門用語等の説明が留学生に非常に好評です。更に、日本語能力等向上のための日本語補習講座を実施しています。

【 日本語補助対象授業科目 】

○前期

1年生・・・「心と身体のしくみⅠ」「心と身体のしくみⅡ」「人間発達の理解Ⅰ」

2年生・・・「社会保障」

○後期

1年生・・・「医療的ケアⅠ」「人間発達の理解Ⅱ」

2年生・・・「地域福祉」

【 日本語補助員 】 ・ ・ ・ 伊藤由香、前田恵里

(4) 食料品の無料配布

昨年度に引き続き新型コロナウイルスでアルバイトが減っている留学生に対して、青果店で少し古くなったものや教職員の家庭内菜園による米や野菜の無料配布を行い好評を得ました。

地域連携施設

高田短期大学 学長公開講座

「えっ！これも仏教用語 — 再発見」【第1回】（全3回）

開催日 9月15日（木）

場 所 2号館2階 大講義室

参加者 58名

講 師 学長 梅林 久高

内 容 日常会話の中で意外と多く使われている、仏教用語がもととなった言葉を紹介しました。表現を豊かにしつつも本来の意味からずれてきたのはなぜか、受講者の皆様にも考えていただきました。



「えっ！これも仏教用語 — 再発見」【第2回】（全3回）

開催日 10月20日（木）

場 所 1号館4階 講堂

参加者 50名

講 師 学長 梅林 久高

内 容 四法印という仏教を特徴づける思想と、それらに関連した用語の現代での使われ方や、用語の由来について解説がありました。受講者の皆様には、日常的に使っている言葉について、より興味をもって考えていただくきっかけになったようです。（本学周辺で採取したシダ類の展示もありました。）



「えっ！これも仏教用語 — 再発見」【第3回】（全3回）

開催日 11月17日（木）

場 所 1号館4階 講堂

参加者 58名

講 師 学長 梅林 久高

内 容 『大菩薩峠』『金色夜叉』『天人五衰』『苦海浄土』など文学のタイトルにみられる仏教用語や古典落語を訪ねてその意味を探りました。受講者の皆様には、著書、筆者作家への興味関心を深めるきっかけとなったようです。

みえアカデミックセミナー2022

三重県内にある全ての大学・短期大学・高等専門学校が有する学びと県民をつなぐ三重県の高等教育機関の連携事業で、各校の特色を活かしたバラエティ豊かな公開セミナーが毎年開催されております。

本学は次の講座を開講し、51名の受講がありました。

日 時 7月14日（木）13:30～15:15

会 場 三重県総合文化会館1階 レセプションルーム

テ ー マ 「仏教保育・仏教教育の魅力」

講 師 子ども学科 特任講師 松山 智道



高田短期大学 公開講座

「音楽と体操とおしゃべりタイム！」

開催日 10月2日(日)

場所 1号館2階 育児文化室

参加者 16名

講師 キャリア育成学科 助教 長谷川 恭子

内容 「心が動けば身体も動く」をテーマに、音楽と体操を組み合わせ、足腰の運動や、どの嚥下機能を高めるストレッチなどが紹介されました。受講者の皆様には、無理なく楽しく身体機能を高める工夫を学んでいただきました。



高田短期大学附属図書館 公開講座

「図書館司書と楽しむ文学とおしゃべりの講座」(全4講座)

【講座1】「ドナルド・キーン - 日本文学再発見」

開催日 6月22日(水)

場所 図書館1階 グループワークエリア

参加者 14名

講師 図書館司書 瀬古 幸弘

内容 日本文学と出会い、悲しい戦乱の時期を経て、来日し日本文学を世界に紹介したドナルド・キーンさんの足跡をたどりました。いくつかのポイントを挙げて、日本文学への興味を深めていただきました。



【講座2】「源氏物語 - 序章」

開催日 9月21日(水)

場所 図書館1階 グループワークエリア

参加者 15名

講師 図書館司書 瀬古 幸弘

内容 限られた時間ではありましたが「源氏物語」の概略を説明しました。「源氏物語」が物語の最高峰と評価されるのはなぜか、「源氏物語」は小説と言えるかなど、受講者の皆様にも考えていただきました。



【講座3】「詩をどう読むか」

開催日 10月12日(水)

場所 図書館1階 グループワークエリア

参加者 15名

講師 図書館司書 瀬古 幸弘

内容 吉野弘の詩や井上陽水・中島みゆきの歌詞などを取り上げ、詩とはどういうものか、どうアプローチするかについて考えました。受講者の皆様からは、より深く考えることができた、新しい感覚だった、学生時代を思い出した、などのお声をいただきました。



【講座4】「小津安二郎 - 世界の評価」

開催日 11月30日(水)

場所 図書館1階 グループワークエリア

参加者 15名

講師 図書館司書 瀬古 幸弘



内 容 英国映画雑誌が10年に1度実施する人気投票の時期に合わせて、三重県ゆかりの映画監督の海外における評価について紹介しました。最後に意見交換となり、受講者の皆様からも4回を振り返っての感想や今後のご希望など、活発にご意見をいただきました。

仏教教育研究センター

研究会の開催

研究テーマ：「真慧上人著『顕正流義鈔』の研究」

高田派中興の祖である真慧上人のご遠忌を記念して、上人が著された『顕正流義鈔』の研究書を発刊することを目的に毎月1回研究会を開催しています。これまでに原文と現代語訳との対照を行い、語句説明を頭註、補註形態で行ってきました。そして昨年度に引き続き、令和4年度も補註と解題の完成に向けて作業を進めました。

仏教教育研究センター公開講座（高田本山教学部 共催）

地域の方々に仏教に触れる機会の提供を目的に、高田本山教学部との共催にて、真宗高田派本山の高田会館ホールにて開講しました。なお、いずれも受講料は無料です。

第1回	日 時	7月13日(水) 13:30~15:30	受講者	28名
	題 目	聖徳太子への親鸞聖人の讃仰		
	講 師	梅林久高(高田短期大学学長)		
第2回	日 時	10月14日(金) 13:30~15:30	定 員	31名
	題 目	親鸞聖人といなかの人々—和語聖教をめぐって—		
	講 師	佐波 真 研究員(仏教教育研究センター研究員)		

仏教基礎講座（高田本山寄附講座）

高田本山からの寄附を基に実施する講座で、仏教や真宗に関する基礎的な内容に加え、真宗高田派の歴史や法宝物に関する知識を以下の日程で学んでいただきました。

日 時	8月22日(月)~8月26日(金) 9:00~17:50			
対 象	寺族及び一般者			
受講料	無料(但し、テキスト代は実費負担)			
教 科 講 師	「仏教学」	栗原 廣海	研究員	(本学前学長)
	「仏教史」	金信 昌樹	研究員	(善昌寺住職)
	「真宗学」	松山 智道	センター長	(本学特任講師)
	「真宗史」	清水谷正尊	研究員	(本学非常勤講師)
	「高田の 歴史と法宝物」	新 光晴	研究員	(真宗高田派本山専修寺宝物館主幹)

仏教専門講座（高田本山寄附講座）

仏教基礎講座と同じく高田本山からの寄附を基に実施するもので、仏教や真宗に関するより専門的な知識を学んでいただくために、以下の日程で年間10回の講座(試験日として11回目あり)を予定していましたが、5月は会場である本山より宗議会使用の申し出があり中止になりました。

なお、この専門講座における講座科目は隔年で内容が変わり、全10科目(隔年で5科目)を開講します。この講座は、文部科学省の履修証明制度に則った「履修証明プログラム」として開講し、全10科目の講座を修了された方には学校教育法第105条に基づいた履修証明書を交付します。

日 程	4月22日(金) —5月27日(金)— 6月24日(金) 7月29日(金)
	9月30日(金) 10月28日(金) 11月25日(金) 12月16日(金)
	1月27日(金) 2月24日(金) 3月 3日(金)
	9時00分～17時50分(50分の昼休憩あり)
対 象	寺族および一般(真宗高田派の教学を学びたい方)
受講料	無料(但し、テキスト代は実費負担)
教 科 講 師	「真宗学講読Ⅲ」 佐波 真 研究員 (明通寺住職) 「仏教学講読Ⅰ」 清水谷正尊 研究員 (本学非常勤講師) 「仏教学概説」 安藤 章仁 研究員 (早稲田大学日本宗教文化研究所招聘研究員) 「高田の宗風」 島 義恵 研究員 (聖洞寺住職) 「真宗学講読Ⅰ」 金信 昌樹 研究員 (善昌寺住職)

運営委員会の開催状況

【開催日】

第1回 4月5日(火)、第2回 4月19日(火)、第3回 7月22日(金)、
第4回 11月29日(火)、第5回 令和5年2月14日(火)、
第6回 令和5年3月13日(月)

【内容】

専門講座について、基礎講座について、令和5年度センター年間行事予定について、
令和5年度公開講座講師について、センター研究会「研究書」の発行について、
令和5年度の講座について

仏教行事委員会

学内仏教行事の実施(宗祖降誕会・灌仏会・報恩講が地域公開行事)

	新入生本山参詣	宗祖降誕会	灌仏会
開催日	4月2日(土)	5月23日(月)	6月20日(月)
講 師	梅林 久高(本学学長)	松山 智道 (仏教教育研究センター長 ・子ども学科特任講師)	藤善 真裕(本学職員)
参加者	249名	326名(2年の視聴も含む) ※2年生は遠隔視聴	252名(2年の視聴も含む) ※2年生は遠隔視聴

	追弔会	報恩講
開催日	10月17日(月)	12月19日(月)
講 師	清水谷 正尊(本学非常勤講師)	梅林 久高(本学学長)
参加者	246名(2年の視聴含む) ※2年生は遠隔視聴	205名(2年の視聴含む) ※2年生は遠隔視聴

育児文化研究センター

Ⅰ. 地域子育て支援事業

1. 地域開放事業「おやこひろば たかたん」

子育て家庭の支援と子育て支援に関する研究フィールドの「おやこひろば たかたん」は、津市を中心に子育て家庭の皆さんにご利用いただいています。スタッフの見守りの中、親子が、子ども同士が、親同士がゆったりした雰囲気遊び、ふれあい、交流を深める場として開催しています。昨年度より実施している戸外（森）や学外（新町会館）での開催日を増やし計画しました。まだ認知されていないためか、参加者は少なめです。活動内容はもちろんですが、広報にも力を入れていくことの必要性を感じています。そして、戸外での自然体験のおもしろさ（森）や少人数空間での過ごしやすさ（新町会館）を親子で味わってほしいと考えています。

(1) 「おやこひろば たかたん」活動状況と利用者数

開催日時 基本として月曜日 10:00～12:00

場 所 育児文化室・「たかたんフォレスト」・新町会館

参加対象 未就園児とその保護者

令和4年度 59回ひろばを開設し、子どもと保護者を合わせて延べ861名の利用。

(2) 子育て講座 ひろば開催日(月1回)にセンター研究員を講師に子育て講座を開催しました。

講座日	テーマ	講 師	参加者数
5/16(月)	親子で楽しむリズム遊びと手品	稲田 直子	5組
6/20(月)	いろいろおさかなあそび	亀澤 朋恵	10組
7/11(月)	親子でハンドトリートメント&ふれあい遊び	権部 良子	6組
8/18(木)	子どもの心の育ちを支える	山口 昌澄	1組
9/15(木)	知って安心! 「つまると危ないたべもののはなし」	長倉 里加	中止
10/17(月)	リズムにのって～親子であそぼ♪♪～	堀内由香里	6組
11/21(月)	親子で楽しもう! ふれあい遊び	小菅千恵子	11組
12/19(月)	楽しく遊ぼうね!	前畑みち代	7組
R5. 1/23(月)	親子で一緒に新聞紙であそぼ	古川久美子	7組
R5. 2/17(金)	子育てが楽しくなる絵本の力	岩附 啓子	7組

(3) ひろば関係研修会

○第1回ひろば関係者研修会 「乳幼児の救急蘇生について」

日 時 8月19日(金) 13:00～ 中止

○第2回ひろば関係者研修会 「令和4年度おやこひろばの活動報告と今後の展望について」

日 時 令和5年1月19日(木) 14:00～

場 所 1号館第4会議室

参 加 者 本学教職員・ひろばスタッフ 計8名

(4) 「おやこひろば たかたん」HP

「ひろば開催日」「活動案内」「活動紹介」等、現在の活動や今後のご案内をしています。

「活動紹介」はブログ形式で写真とともに、ひろば開催日毎にアップをしています。また、プリントアウトして育児文化室前にも掲示しています。

2. 子育て相談

地域への子育て支援の事業として、育児に関する心配や不安を相談できる個別対応の子育て相談を予約制で行っています。4月～3月までに7件の相談利用がありました。

II. 研究会

センター研究員の活動の場として定例研究会とグループ研究会を開催しています。

1. 定例研究会（年3回）

- 第1回 第61回定例研究会 7月5日（火）16:30～（第4会議室） 参加者19名
研究報告 大西 真純 研究員 「スリランカ保育について」
- 第2回 第62回定例研究会 10月27日（木）16:30～（図書館） 参加者17名
研究報告 グループ研究 「おやこひろばたかたんにおける学生の学びについて」
- 第3回 第63回定例研究会 令和5年2月6日（月）16:30～（第4会議室）参加者19名
研究報告 前畑 みち代 研究員、藤重 育子 研究員
「時代の変化にともなう育児や保育に関する研究～自分の子育て、今の子育て」

2. グループ研究会

- グループ研究①「子育て支援のひろばについて」（4名） 開催回数：5回
- グループ研究②「おやこひろばたかたんにおける学生の学びについて」（5名） 開催回数：4回
- グループ研究③「野外体験保育とこれからの保育者養成」（8名） 開催回数：2回
- グループ研究④「子どもの基本的な生活習慣と育児」（6名） 開催回数：6回
- グループ研究⑤「子どもと絵本」（3名） 開催回数：3回

III. 学生支援事業

1. 地域保育関連の学生ボランティア活動支援「子育て応援隊活動」

外部から学生へボランティア募集があれば、学内新型コロナウイルス対策委員会に対して「行事実施計画書（感染症対策関連）」を提出し、許可が出たものについて、学生に募集を行いました。今年度は76名の学生が地域の活動に参加しました。

2. おやこひろば応援サークル「たんたんクラブ」

保育や子育て支援を学ぶ目的のサークル「たんたんクラブ」は発足5年目となりました。授業と重ならないように自分たちで日を調整し、ファミリーデーには夏祭りごっこを実践したり、3月には「手作りおもちゃ」「ゲームコーナー」「手作りプレゼント」などの活動を行いました。



IV. 広報物及び研究成果の発行

1. センターたより「いくぶん」第27号

8月末に発行しました。

2. 育児文化研究センター紀要「高田短期大学育児文化研究」第18号（令和5年3月発行）

執筆希望者を編集委員会で協議し執筆者を決定しました。研究論文4編、実践報告1編、文献紹介2編と定例研究会での研究報告要旨、5つのグループ研究会の活動報告等を掲載しました。

種別	テ ー マ	執筆者
研究論文	保育者養成課程における自然体験実習の意味について (2) ～ 保育の場における「自然に親しむ」保育の実態と実践から ～	河崎道夫
研究論文	祖父母世代が子育て・孫世代に与える影響について ～ 保育士を対象とした調査から ～	榊原耐津子・杉山佳菜子 ・小川真由子
研究論文	デジタル絵本の捉え方と今後の扱い方に関する研究	藤重育子・川戸良子
研究論文	親子を対象とした地元の木材による楽器作りと音遊びの取り組みと課題 ～ 三重県産ヒノキによるクラベス作りをもとに ～	山本敦子
実践報告	コロナ禍における子育て支援に関する研究	福西朋子・青木信子・長倉里加 ・金森まさ子・権部良子
文献紹介	地域における孫育ての取り組み ～ 地域子育て支援拠点の構築に向けて ～	青木信子
文献紹介	保育者におけるデジタル絵本の認識に関する調査研究	前畑みち代・藤重育子

3. 子育て情報発信

「情報誌きらきら」（隔月発刊：年6回）の育文センター担当頁「子育てライフ応援隊！一緒に子育てをはじめましょ」への子育て情報を掲載。

掲載 Vol	掲載号 2年	発行日	広場・相談 掲載日程	テーマ（担当）	
				子育てアドバイス	おやこひろばより （ひろばスタッフ）
68	5・6月	5/21(土)	6・7月	小学校高学年における教科担任制について（寶来）	梅雨の季節 遊びと健康
69	7・8月	7/9(土)	8・9月	食前の「いただきます」（松山）	子どもと一緒にのお出かけは、楽しく安全に！～水辺での笑顔を守る～
70	9・10月	9/25(日)	10・11月	続・赤ちゃんへの話しかけと歌いかけ（山本）	子育てファミリーの防災対策
71	11・12月	11/26(土)	12・1月	絵本を楽しむ（金森）	秋の自然を全身で感じよう！
72	1・2月	R5. 1/25(水)	2・3月	子どもの「イヤ」に向き合う（中嶋）	心穏やかに春を迎える
73	3・4月	R5. 3/25(土)	4・5月	チームで子育て（河内）	春と子どもと心の準備

V. 地域連携事業

1. みえ次世代育成応援ネットワーク

みえ次世代育成応援ネットワークに運営委員として参画し、県行政と地元企業や地域子育て団体と連携し、子育て支援活動事業に取り組みました。

「みえの子ども応援プロジェクト」ありがとうの一行詩コンクールには多くの学生が応募し、2月に開催された「子ども応援！わくわくフェスタ」には企画運営に協力しました。

2. みえこどもの城連携協定による事業

「伊勢茶を楽しん茶お！」 9月 4日（日）

「たかたん あそびひろば」 12月17日（土）、令和5年1月21日（土）

3. 地域啓発事業 主催講演会

「身近な自然を活かした保育実践から ～環境・人とつながって育つ～」

講 師 松本 信吾先生（岐阜聖徳学園大学 教授）

日 時 5月28日（土） 14:00～16:00

場 所 高田短期大学 カフェテリアおよび森のひろば

参加対象者 保育関係者・学生（主催・共催側を含めて41名参加）

※感染対策上参加対象を限定したため、関心のある地域関係機関にも内容を視聴できるように動画視聴の案内をしました。



VI. 津市委託事業

1. ホッとひろば事業

乳幼児を子育て中の親を対象として、ほんのひととき子どもから離れてホッとできる時間に、子育て中の親同士が交流できる場を4回実施しました。

講 師 橋本 景子（高田短期大学 非常勤講師）

第 1 回 8月23日（火） 10:00～12:00 参加者2名 託児4名

第 2 回 9月30日（金） 10:00～12:00 参加者2名（※学童保護者対象）

第 3 回 12月 3日（土） 10:00～12:00 参加者6名 託児9名

第 4 回 令和5年2月26日（日） 10:00～12:00 参加者6名 託児8名

キャリア研究センター

1. 地域連携事業

(1) 「津市」「一身田商工振興会」との連携・協力事業

「一身田寺内町マップ」の作成、報告会の開催、配布

キャリア研究センターでは津市、一身田商工振興会と連携して、一身田寺内町の活性化に取り組んでいます。

その一環として、キャリア育成学科オフィスワークコース中畑ゼミの学生が「一身田寺内町マップ」の作成に取り組みました。一身田寺内町マップの案につき、一身田商工振興会、津市、一身田寺内町の館、一身田寺内町ほっとガイド会の方々を招き、6月16日（木）に報告会を開催し、ご意見や提案をいただきました。

報告会でのご意見や提案を踏まえて、完成させた一身田寺内町マップを7月17日（日）に一身田寺内町への来訪者に配布し、協力していただけるお店に配置しました。また、三重県観光連盟、津市観光協会、JR津駅、近鉄津駅にも置かせていただきました。JRからは秋に計画しているウォーキングイベントで使いたいとの反応もいただきました。



「一身田商工振興会Instagram」による情報発信

令和2年度より、一身田商工振興会のInstagramへの高田短大生による記事・写真の投稿を、ボランティア学生を募り行っています。

フォロワーも徐々に増え、地域の団体や地域の名店などのフォローが多くなっております。



「ISE 芋でつながろう2021」プロジェクト

高田会館・和菓子店春乃舎よりの依頼を受け、オフィスワークコースの川喜田ゼミ2年生がゼミ内で様々なアイデアを練り、両店と打ち合わせを重ねて和菓子「サンジノイセイモ」を完成させました。この商品PRと販売活動を「親鸞聖人降誕会・お待ち受け法会」でのイベント「高田会館物産展（5月21日（土）・22日（日））」においてに行い、プロジェクトの成果を地域の方にお披露目できる良い機会となりました。

その甲斐もあって、2日間で600個を完売。伊勢新聞からも取材を受けました。その後も高田会館様からは「よく売れています」との嬉しい報告をいただいています。



(2) 三重県信用保証協会との連携事業

三重県信用保証協会と高田短期大学は地域への貢献、産業人材の育成、産業振興、創業・起業支援に寄与することを目的に連携協定を結んでいます。産業人材の育成、創業・起業支援の活動の一環として、オフィスワークコース2年生のビジネス実務論の講義の中でお話を頂いています。今回は三重県信用保証協会の企画調整課浦田主査にお越しいただき、「企業経営の原則とお金の関わりについて」と題して、7月5日（火）にお話をいただきました。



(3) 湯元榊原館との連携協定締結、連携事業

「湯元榊原館との連携協定締結」

榊原温泉の老舗旅館、湯元榊原館との連携協定を9月30日（金）に締結しました。

協定の目的は「地域の活性化、地域を支える人材の育成、学生の実践的教育における重要なパートナーとして、相互に連携協力することにより、地域の発展、人材の育成に資すること」としており、榊原温泉地域の活性化や高田短期大学とその学生の調査・研究、教育に資する活動を行っています。この連携の高田短期大学側の窓口を、キャリア研究センターが担うこととなりました。締結式は中日新聞、ZTVなどでも報道され、本学の地域貢献活動のアピールにもなったと考えます。

まずは本学の学生が榊原地域を知ることから始め、学生の感性を活かした提案や情報発信への参加など、榊原温泉地域の活性化につながる活動を行っていきたいと考えます。また、湯元榊原館、榊原温泉地域をフィールドとする学生の自主的な学び、社会と関わる実践的活動の場としていきたいと考えます。



「湯元榊原館湯の庄利用者アンケートの実施」

湯元榊原館の日帰り温泉施設「湯の庄」改装検討のための利用者アンケート調査を、ボランティア学生を募り実施しました。アンケート項目の検討、調査票作成、集計結果の見方などにつき本学教員がサポートを行いました。

アンケート調査には延べ16人のボランティア学生が参加、500枚近くのアンケートを回収しました。「学生さん達の姿勢も声も大変良く、湯の庄の休憩室が明るくなった」と、同館より感謝の言葉もいただきました。また、伊勢新聞でこの活動は報道されました。



(4) 百五銀行・百五総合研究所との連携事業

就業支援セミナー「売れていくをつくる！マーケティングの基礎と考え方講座」を開催予定

令和5年2月16日(木)に、百五銀行、百五総合研究所との連携事業として開催し、21名の参加(申し込みは定員の24名)がありました。マーケティングは公開講座では新規のテーマです。

講師はキャリア研究センター長中畑裕之が務め、マーケティング・マーケティング担当者の役割は何か、基本的なマーケティングの概念やツールについて、また、ブランド戦略などについてお話ししました。その上で、自社の顧客(ターゲット)は誰なのか、自社の4つのP(製品、価格、販路、プロモーション)はその顧客に対して適切なのかについて、参加者の方にそれぞれ考えていただきました。

参加者アンケートでは回答者20名中「大変満足」7名、「まあまあ満足」8名、「普通」4名、「やや不満」1名でした。参加者は上場企業から街の個人商店まで規模も業種もバラエティーに富んでおり、より高度な内容を期待してこられた参加者もいたと思われます。



2. 公開セミナーの開催

(1) 就業支援セミナー「クレーム対応基礎講座」を開催しました

「クレーム対応基礎講座」を8月17日(水)に開催いたしました。参加者は11名で、一般企業の方だけでなく行政機関の方が今回は多く参加されました。講師はキャリア支援センター研究員であり、株式会社WillStaff代表取締役でもある長谷川聡子研究員が務めました。



参加者アンケートでは「大変満足」8名、「まあまあ満足」3名で、全員が満足の回答でした。また、自由記述では「今後の仕事に活かせる」などの肯定的な意見を多くいただきました。

介護福祉研究センター

1. 研究活動

1. 定例研究会

介護福祉研究センターでは、地域の福祉施設等の関係者や介護福祉関係で活動していただいている方々や卒業生を研究員に招き、2022年9月現在49名(内卒業生22名)の研究員が在籍しています。年間4回の定例研究会を開催し各分野の情報交換を行い、地域に還元できるよう学びあっています。場所は、原則介護福祉研究センターまたは介護実習室で行っています。

1) 第48回定例研究会 6月21日(火) 17:40~19:30 参加者 16名

- ・テーマ「地域包括支援センターの現状と課題ー亀山市における実践を通してー」
- ・発表者：山下 千晶 研究員
- ・内容： 精神保健福祉士・社会福祉士・公認心理士の有資格者である山下千晶研究員に、現在お勤めの社会福祉法人安全福祉会 亀山第2地域包括支援センターもくれんについての実践を通じたお話をいただきました。亀山市の高齢化率から地域包括ケアが求められる背景、権利擁護の実態など、非常に興味深いお話でした。

今後、日本の高齢化や人口減少など様々な課題に対し、地域包括ケアシステムがどうあるべきか、また、高齢者の精神的な不調を察知できる体制づくりなどの課題を考える機会となりました。

2) 第49回定例研究会 9月12日(月) 11:30~14:30 参加者 17名

- ・テーマ「聖マッテヤ心豊苑の紹介、介護福祉士としての仕事の現状など」
- ・発表者：北川 なみ (本学卒業生)

- ・内容： カフェテリアでの軽食の後、介護棟へ移動し、障害者支援施設 聖マッテヤ心豊苑 療護グループサブリーダーの北川なみさんから聖マッテヤ心豊苑の取り組みについてお話をいただきました。職員対象の腰痛検査の実施、新型コロナウイルス感染拡大防止策、介護職員による医的ケア、福祉用具の取り扱い、コロナ禍での年間行事の工夫、夜間に利用者の安全を守る眠りスクランの活用、スヌーズレンでの活動などの特徴的な取り組みについてのお話がありました。意見交換では様々な質問が寄せられ、腰痛検査の方法や目的、スヌーズレンの対象になる方の選び方、福祉用具の取扱いは現場でないと分からないことがあるので学校では基本的なことを押さえるのが大切であるということの補足が講師からありました。



今回は、津市障がい福祉課主幹の堀川氏にもご出席をいただきました。津市の障害者入所施設は増えていないが障害者は増えているため待機者も多いこと、入所施設は障害者の「終の棲家」として想定されておらず国は地域移行を推奨しておりグループホームを増やす方向である。現在、津市には重度訪問介護のサービスを受けながら16名の障害者が在宅でひとり暮らしをされているとの状況もお聞きしました。本学については、介護福祉研究センター定例研究会が今回で49回となり多く開催してきたことに興味をもっていただきました。また、介護福祉コースでは1,850時間のカリキュラムがあり学生は一生懸命学んでいることを知っていただいたため知的障害・身体障害それぞれの知識をもつ人を育てていっていただければとのお話をいただきました。

3) 第50回定例研究会 11月30日(水) 17:00~18:30 参加者13名

- ・テーマ「子どもと職員の育ちあいー障害児通所支援事業所での実践からー」
- ・発表者：中嶋 麻衣 研究員

- ・内容： 本学子ども学科助教である中嶋麻衣研究員は、今年度から本学に着任され、昨年度までは2か所の障害児通所支援事業所に9年間勤務されておりました。この9年間の実践を振り返り子どもたちと関わるうえで、支援する側は先生ではなく、子どもたちや保護者の伴走者として子どもの発達に関わっていくことが大切であること、また、子どもや保護者の思いやニーズに沿った支援をすることや子どもたちが様々なことを経験できる場にしていくことが求められるとお話がありました。



今後の展望として、県内の発達支援がどのように整備されてきたのか、子どもにとっての発達支援の意義等について研究していきたいとのことでした。

4) 第51回定例研究会 令和5年2月16日(木) 17:00~19:00 参加者 11名

- ・テーマ「精神科病院 デイケアでの地域生活支援実践報告」
- ・発表者：平田 育代研究員

- ・内容： 介護福祉士、精神保健福祉士である平田育代研究員よりお話をいただきました。20代から入退院を繰り返してきた統合失調症の女性の支援担当となり、退院から自宅での



支援、その後の経過報告を退院1年後の様子までまとめてご報告いただきました。

精神障害者の生きづらさを理解することは、支援者の想像をはるかに超えていたことが関わりを通してわかったこと。長期間の関りの中で、その人の生きづらさや課題が少しずつ浮き彫りになってきたことに感動したと話されていました。私たちの当たり前が当たり前であることの難しさを知ることで、それがすべての人々の理解に繋がってほしいとお話されていました。

II. 実施事業

1. 介護福祉セミナー

1) 介護福祉セミナー

12月18日(日) 13:30~15:30 参加者 25名
テーマ「ミュージックセラピー～聴いて感じて、リフレッシュ～」

講師：長谷川 恭子 研究員、杉本 佳代 (ソプラノ歌手)

長谷川研究員からミュージックセラピーについて講義を受け、トーンチャイムという楽器を使い、一人ひとりが自分の音を担当しながらグループ全員で音楽を奏でる体験を楽しく行いました。また、ソプラノ歌手の杉本さんからはクリスマスにちなんだ生歌をご披露いただいたり、エッグシェーカー等を用いて参加者と合唱したりと心が癒されリフレッシュしながら学べ、あっという間の2時間でした。



2. 全国障害者問題研究会 東海ブロック研究集会 in M I E

令和5年3月18日(土) 9:00~16:00 本部会場：高田短期大学
ZOOMによるオンライン同時双方型開催を実施。当日申込者50名

大会実行委員長である松山和幸氏、本学の梅林久高学長による挨拶に始まり、基調提案を全国障害者問題研究会三重支部長である千草篤麿氏が行ったあと、記念講演「目からウロコの実践の視点～子どもの発達と障害を学ぶ～」と題して赤木和重氏(神戸大学大学院人間発達環境学研究科准教授)が講師として登壇しました。

研究報告が辻和美氏(特別支援学校聖母の家学園)からあり、その後、文化行事ビデオ構成{もっと豊かに生きていきたい～わたしたちのねがい・思い～}が行われました。

午後は、「就学前」「学齢期」「青年・成人期」の3つの分科会に分かれ、話題提供や討議が行われました。本センターの中川センター長、川喜田研究員、寺家研究員も運営に加わり、主にZOOM環境の整備やスムーズな大会進行に協力しました。

III. 介護のみらいを考えようーあなたの思いやりを言葉にしてみようー作文コンクール

高田短期大学主催事業である、第3回(令和4年度)介護のみらいを考えようーあなたの思いやりを言葉にしてみようー作文コンクールの企画運営協力を行いました。第2回文集を作成し、第3回作文コンクールの募集を県内小中学生向けに行う際に連携協定市を中心に県内介護福祉施設等、各関係機関へ配布し広報しています。第3回は、令和4年9月15日の募集終了までに690作品(小学生200名、中学生490名)の応募がありました。

対象者：三重県内の小学校に通う5・6年生および中学生

表彰式：11月12日(土) 10:30~11:30開催

※最優秀賞と優秀賞は、介護福祉研究センター紀要「高田短期大学介護・福祉研究」第9号に掲載



第3回介護作文コンクール表彰式

11月12日（土）、三重県社会福祉協議会会長、三重県老人福祉施設協会会長を来賓に迎え、本学講堂にて表彰式が開催されました。

式典では、最優秀賞をはじめ5名の受賞者に朗読披露していただきました。その様子は、夕方の三重テレビ放送ニュースで放映されました。



IV. 研究成果の発行

1. 介護福祉研究センター紀要「高田短期大学介護・福祉研究」第9号（令和5年3月発行）

執筆希望書を編集委員会で協議し執筆者を決定しました。研究論文1編、実践報告3編に原稿依頼しました。

高田短期大学介護・福祉研究第9号執筆依頼一覧

*掲載順は各種別順

種別	テ　　マ	執筆者	頁
研究論文	介護実習でのレクリエーション実践及び介護福祉士養成校に求められる知識・技術	長谷川恭子	10
実践報告	認知症高齢者への介護実践（Ⅰ）～関わり続けることの意義～	千草 篤磨 出馬 宏海 中村 匠 前田 彩	10
実践報告	精神科病院 デイケアでの地域生活支援 実践報告	平田 育代	10
実践報告	高齢者と同居するひきこもりの子への支援とその課題 ～ 地域包括支援センターにおける活動を通して ～	山下 千晶	5

その他のボランティア活動

本学の教育理念である「やわらか心」の実践の場として、全学生にボランティア体験活動プログラムを組み実践させることへの取り組みをしています。本年は一昨年度に続き、新型コロナウイルスの影響を受け、感染防止対策面から、従来活動を大幅に見直したため、オフィスワークコースのボランティア実践履修生、ボランティア、国際交流部員の応募者を中心編成されたチームでの活動となりました。

三重県教育委員会が推進する「高等教育機関の専門的な知識や技能を生かす教育プログラム」、特に、鈴鹿市立白子公民館実践定期講座、名張市蔵持市民センター事業等に講師役の学生を派遣する事業には積極的に取り組むことができました。

また、全国的にも注目されるユニークな活動である三重県警察本部との協働プログラム、サイバー犯罪被害防止活動では、公民館講座をとおして高齢者向けスマホ教室を実施する中で、メール攻撃への防御法などの広報活動を入れて取り組んでいます。参加延べ人数は計159名となりました。



学内施設設備の整備事業の実績

高田短期大学 1号館空調設置工事

施行业者 : 藤原工業株式会社
施工場所 : 1号館各教室・学長室・研究室・事務局・
学長応接室・応接室・会議室・留学生支援室
施行費用 : 31,664,592円
施工時期 : 8月～10月



高田短期大学 学務システム更新

依頼業者 : 株式会社電翔
更新場所 : 学内全体のサーバー
更新費用 : 28,600,000円
更新時期 : 令和5年3月



【命の大切さを考える教育の推進】

本校の建学精神である「仏教の教え、親鸞聖人の教えに基づく宗教的情操教育」を校訓として仏教教育による人間味の豊かさを求め、規律精神を基とした行動力の育成と基礎学力の充実錬磨に努め、広い視野から社会貢献できる人間の養成を目指した教育を実践しています。

月1回の本山参詣や週1時間の一般仏教の授業及び校外宿泊学習での平和学習等において自他共にかけがえのない「命」を尊重し、人間は一人で生きられない存在であり、他者と共感共有し支え合って生きる重要さに気づけるよう努めています。特にいじめの未然防止といじめを許さない、いじめをさせないことなどを視野に入れて、行事や授業に反映させています。いじめ・体罰・ハラスメントについては、学期毎にアンケート調査を実施しています。

また、本山参詣で仏教講話を聴聞することを通して、聞くことの大切さ、その受容により共感する大切さを身につけることにつながると考えています。これらの体験活動を基盤として人権学習とも連携しあい、社会でのマナー、コミュニケーション能力を向上させ、自然との共生に関心を持って身近な日常生活の中で思いやりと慈しみのある生き方を涵養しています。



人権教育研修の推進

本校は、宗祖親鸞聖人の教えを建学の精神として、宗教的情操を養い、互いの人格・人権を尊重できる人物の育成に努めています。生徒たちには「うわさや偏見に流されず真実を確かめ、自分自身の考えを持つ」「差別に立ち向かい行動する力をつける」「他者の異なった価値観を尊重しながら仲間同士のつながりを強める」ということを具体的な目標として人権教育を実施しています。

生徒に対する人権教育については、各クラスでのLHRなどを通じて、身近な人権課題を考える機会をつくり、日ごろから人権を意識するように努めています。そして、学年ごとに人権テーマを設定して、学年人権LHRを実施します。

文化祭での人権展示については、高3 6年・高1 4年、中2年、中1年はテーマに従った人権メッセージを全員が作成して、文化祭で展示発表しました。今年度のテーマは「戦争で苦しんでいる人々がいる今の世界で、一人一人の人権が守られるために私たちにできること。」でした。また、高2 5年、中3年は校外宿泊学習における平和学習の事前学習をまとめました。

12月の2学期末考査後に、高校は学年別で、中学校は全体で、学年人権LHRとして人権講演会を実施しました。高3 6年は、「社会へ羽ばたくみなさんへー“わたし”らしく生きるを考えるー」と題して本江優子さん（反差別・人権研究所みえ）に講演して頂きました。高2 5年は、「自分の立つ位置は？ー部落問題を自分事にするためにー」と題して原田朋記さん（反差別・人権研究所みえ）に講演して頂きました。高1 4年は、「インターネットと人権」と題して中村尚生さん（反差別・人権研究所みえ）に講演して頂きました。中学校でも、「インターネットと人権」と題して中村尚生さん（反差別・人権研究所みえ）に講演して頂きました。地域の人権活動として、

栗真小学校で開催された一身田中学校区子ども人権フォーラムと一身田中学校で開催された一身田中学校区人権フェスティバルに、中学校生徒会が参加しました。

教職員に対する人権研修については、人権教育推進担当を中心に研修会へ積極的に参加して成果を職員会議などで還元しています。特に今年度は校内人権教育推進委員会対象のフィールドワークに替えて、以下の研修会に参加しました。

○三重県主催

7月23日(日) 第1回県民人権講座 企業経営と人権

○三重県私学振興会主催

8月25日(月) 人権教育研修会 三重の人権教育の現状と課題

○三重県教育委員会主催

8月4日(木) 人権教育ガイドライン・サポートブック活用講座

人権学習指導資料等活用講座「子どもの人権」「女性の人権」

8月5日(金) 人権学習指導資料等活用講座「障がい者の人権」「部落問題」

8月19日(金) 人権学習指導資料等活用講座「様々な人権問題」「外国人の人権」

○津人教一身田支部主催

8月5日(金) 一身田中学校区人権研修

「部落史観の転換と被差別民衆が担ってきた社会的役割」

○中勢地区高校生人権活動交流会主催

8月19日(金) 第6回人権広場のヒューリアみえ松村元樹さんによる講演会

「無関心でいられても無関係ではられない人権問題」

また、8月19日(金)に高田学苑教職員人権研修として、「今こそ問われるハンセン病の教訓～コロナ禍で考える差別～」と題して、三重テレビ放送報道制作局長の小川秀幸さんによる講演会を行いました。コロナウイルス感染拡大により2年実施を見送り、ようやくの開催になりました。さらに例年8月に実施していたフィールドワークに代えて、7月と8月に人権教育推進委員会の先生方が各種の人権研修会に参加しました。3月10日(金)から17日(金)を人権ウィークとして期間中に全教員が「人権に関する授業」を実施しました。各授業担当の先生方から、独自の視点で人権に関する授業を行い、生徒が人権について学ぶだけでなく、教職員も人権について考える機会となりました。

人権感覚を磨くことは今の自分を見つめ直すことであり、他人任せにすることでは身に付きません。様々な課題を抱える厳しい現代社会の中でいかに生きるかを模索し、今後も地域や家庭と連携を取りながら人権教育を着実に進めていきたいと考えています。



【きめ細やかな学習指導の推進】

生徒に寄り添った親身の指導という点において、生徒や保護者の方々から高い評価を頂戴しています。その期待に添うように個々の生徒の学力や学習進度、到達度に応じた綿密な指導を行うとともに、学習面のみならず個々の生徒の環境や状況、特質や個性を鑑みた総合的な指導を心がけています。各教科の授業は年間指導計画に基づき実践されるのは勿論のこと、SHRや放課後の小テスト、補講、夏期講習などの時間を設定し、通常の授業では導入しにくい反復学習や発展的学習の機会を多く取り入れています。また、考査後に個別懇談、一学期末には保護者を交えた三者懇談などを行い、生活指導も含めた学習指導や進路実現のためのサポートの充実を図っています。そのために中学校は学力推移調査、高等学校はスタディ・サポートを導入しより精緻な指導を目指します。さらに、夏季休業中においても、各学年で工夫したセミナー等を実施し、苦手な分野の克服やキャリア教育の充実に努めています。こういった活動は生徒の内面的成長と自己実現に有意義な成果をもたらすと考えます。生徒を取り巻く環境が多様に変化を重ねる昨今、不登校や精神的な悩みを抱える生徒の数は増加の一途を辿っています。これに即応するため、本校では教育支援委員会、生徒指導部、各学年、スクールソーシャルワーカー、養護教諭、カウンセラーが連携して保護者や生徒の心理的負担を軽減できるよう心身のケアに努めています。

令和4年度は新型コロナウイルス感染症も収束とまではいかないものの、徐々に学校現場においての規制も緩和され、令和5年5月8日以降感染症レベルが5類に引き下げられることから、今まで停止、中止されていた生徒の実体験すべき様々な活動が実施されていくことが期待されます。生徒が安心して充実した学校生活を送れるよう、さらなる創造と工夫を重ね、生徒の自己実現を目指した教育を実践していきたいと考えています。

【ICT教育とアクティブラーニング対策の推進】

令和3年度より、中学1年生（58期生）に一人1台の端末を導入し、本年度よりⅢ年コースの高校1年生、6年コースの中学1年生に対し、令和3年度と同様に一人1台の端末導入を実施しました。端末はiPadの64GBセルラーモデルを学校から貸与する形式です。他の上級学年では、BYODで教育活動を行っています。教育用アプリケーションは主に、ClassiとGoogle Workspace for Educationを活用し、コラボレーションの促進、指導の効率化、学習環境のセキュリティ確保の実現を目指しています。また、ドライブを利用して、授業や部活動で資料共有や動画共有を行っています。Classiでは学習記録の蓄積、アンケート、ポートフォリオの蓄積などに活用し、さらに保護者とのコミュニケーションツールとしても使用し、保護者からの欠席連絡、学年や担任から保護者への連絡などを容易に行うことができます。Ⅲ年コースでは、学習補助教材としてスタディサプリおよびスタディサプリイングリッシュを導入し、基礎学力の定着に活用しています。iPadを利用した学習は、リモートによるグループ研究、校外活動などの場で有効に機能し、生徒の学習意欲の向上に繋がっています。電子黒板を活用した授業では、日々教員間で利用に関する工夫と改善が行われ、図やグラフ、動画、資料、教科書などを補助教材として積極的に利用するとともに、板書は従来通り黒板にまとめるという形式が定着しています。また、NTTのビジネスチャットであるeIganaを導入しており教員間のコミュニケーションツールとして有効に機能しています。



令和4年度は新型コロナウイルス感染症拡大を懸念し、アクティブラーニングの機能的な活用には、まだまだいたっていませんでしたが、マスクとフェイスシールドを併用したり、距離を取ったりするなどして可能な限りの実施をしました。

【キャリア教育の推進】

生徒が育つ社会環境の変化は生徒たちの心身の発達にも影響を与えています。加えて産業・経済の構造的変化、雇用の多様化・流動化等は、生徒たち自らの将来のとらえ方にも大きな変化をもたらしています。こうした状況下で、変化を恐れず、社会に対応していく力を育てることが不可欠となってきています。

生徒が未知の知識や体験に関心を持ち、仲間と協働して学ぶことを通して、未経験の体験に挑戦する勇気とその価値を得ることで、生涯にわたり学び続ける意欲を維持する基盤を作り出せるものと考えています。

社会体験等の校外活動は、他者の存在の意義を認識し、向社会性を高めたり、社会との関係を学んだりする機会となり、将来の社会人としての基盤づくりともなると考えられています。その基本に基づき、本校は、ほとんどの生徒が進学を希望している関係上、進路情報の豊富な企業や大学と連携し、自己研鑽の一助としています。

進路・職業観を考える学習会等

	鈴鹿医療科学大学連携講座	進路ガイダンス
対 象	高Ⅰ・Ⅱ年	高Ⅰ・Ⅱ年
内 容	薬学・看護・医療技術学部関係者による医療系学部の現状説明	①大学・短大・専門学校の個別相談会 ②大学学部分野別進路相談会
実施日	12月22日(木)	①12月9日(金) ②令和5年3月16日(木)
	皇學館大学連携講座	進路ガイダンス
対 象	高Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ年	高Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ年
内 容	①文学部・現代日本学部の教員による出張講義 ②皇學館大学訪問 (講義・キャンパスツアー)	①三重大学各学部の教員による出張講義 ②名古屋市立大学薬学部・総合理工学部・人文社会学部教員による出張講義
実施日	① 7月・9月に複数回 ② 8月2日(火)	① 7月・8月に複数回 ② 10月・11月に複数回



4年生キャリア研修

上述のキャリア教育の方針に基づく取り組みとして、例年、夏季休業中を利用し、4年生を対象に東京キャリア宿泊学習を実施しています。例年であれば東京に赴き、多くの本校卒業生の皆様にご助力をいただきながら、大学見学や企業訪問を実施するところが本研修の主目的であります。新型コロナウイルスの長引く影響により、昨年度と同様、高田高等学校でオンラインを利用して、7月27日(水)・28日(木)・29日(金)の3日間で下記の3つのプログラムを実施しました。

- ① 『SDGs+大学選び』 各大学のSDGsに向けたさまざまな取り組みを知ること、学び主体の、より良い大学選びにつなげる。
- ② 『CASプログラム(キャリア開発)』 職業に対する意識を理解し、働く理由を考える。社会人とのコミュニケーションを通して、職業観・勤労観を学ぶ。
- ③ 『日経から学ぶ探究学習プログラム』 探究学習の基礎となるスキルを学ぶ。社会課題を自分ごととして考えることで、より深い学びにつなげる。

東京キャリア研修の代わりに行った取り組みでしたが、昨年と同様、内容が充実しており、「生徒の視野を広げる。進路意識を高める。」という当初の目的を十分果たすことができました。

最初のプログラム「SDGs+大学選び」では、同じSDGsの目的に対して各大学・各学部学科が様々な取り組みを行っていることを知ることで、あるテーマに対して多面的・多角的にアプローチできることを生徒に理解させることができました。また、各大学のSDGsの取り組みを大学選びの基準にするということを知り、生徒の視野も広がりました。

「CASプログラムOnline」では、海外勤務経験や起業経験など様々な背景のある社会人5名にリモートでお話いただき、熱心に聞き入る生徒たちの姿が見られました。スライドや動画によって「将来の働き方」について具体的にイメージすることができ、さらに多種多様な考えを知り、生徒は自分自身について段階的に分析・理解し、働く上での自分の軸が何かを見いだすことができました。

「日経から学ぶ探究学習プログラム」では、新聞の読み方から始まり、新聞記事の背景を考えたり、新聞記事を「自分ごと」としてとらえたりすることで、生徒が社会との関わりに目を向けることができました。

この研修を経て、生徒の雰囲気・意識に変化が見られました。オンラインで行われましたが、社会人の方に積極的に質問する生徒が多く見られました。また、自分のやりたいことを多面的に見つめ直し、文理にとらわれず進路について考えるようになった生徒も増えました。主体的に取り組む生徒が多くなり、生徒の進路意識の高まりを実感しました。

文理選択を控えた4年生にとって、将来のことを考える大変有意義な研修となりました。



比叡山校外宿泊学習

本年度は、中学1年と中学2年が中学校の伝統行事である比叡山校外宿泊学習に参加しました。コロナ禍の為、両学年とも昨年度と同様、2泊3日から1泊2日に変更し、a b c組とd e組の2班に分けて実施しました。

行程は同じで、初日に横川(横川中堂・恵心堂・四季講堂)、西塔(浄土院・釈迦堂)を参拝しました。生徒達は諸堂での説明に熱心に耳を傾けました。二日目は、早朝6時に根本中堂を参拝、読経と講話を拝聴しました。厳粛な雰囲気の中、仏教の世界と向き合いました。その後東塔(阿弥陀堂・大講堂・戒壇院)と急な山道を下った先にある無動寺谷(大乘院)を参拝し、講話を拝聴しました。中学1年d e組は二日目の天候の悪化が予想されたために、急遽初日に無動寺谷を訪れることに変更し、なんとか全ての御堂を参詣することができました。

期間が短縮されただけでなく、感染症予防のため、食事の仕方や宿舎での生活の仕方にも制約が課せられましたが、従来の行程の主要なものは実施することができ、仏教と比叡山、そして親鸞聖人との関わりを学ぶことができました。又、入学後初めての宿泊学習でお互いの関係を深めることもでき、この経験が今後の成長へとつながっていくものと期待しています。

【日程】	中学2年生	a b組	7月23日(土)～24日(日)
		c d e組	7月24日(日)～25日(月)
	中学1年生	a b組	7月25日(月)～26日(火)
		c d e組	7月26日(火)～27日(水)



大学等との連携事業

学習・進学意欲の向上、各分野への興味・関心の深化を目的として、各学年・コースで、三重大学や鳥羽水族館等と連携事業を毎年実施しています。例年実施している三重大学との講座は、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、過去2年間は三重大学構内では実施できず、高田高等学校内のみの実施となりました。本年度は新型コロナウイルス感染拡大防止対策も少し緩和され、三重大学構内でも6講座を実施することができました。三重大学の夏期休業中に実施するサマーセミナーには生徒が多数応募し、抽選で選ばれたのべ49名が三重大学もしくはオンラインで受講しました。また、令和2年度に皇學館大学と高大連携協定を締結してから本年度初めて出前授業やミニオープンキャンパスを実施しました。また、毎年鳥羽水族館での実験も2年ぶりに行うことができました。さらに2学期からは皇學館大学のみならず豊田工業大学や名古屋市立大学の出前授業も実施することができました。本年度は2学期の講座に限り中学3年生にも講座の案内を配布し、参加者を募り、20名程度の生徒が参加しました。

各大学の連携事業の詳細は以下の通りです。

【三重大学】

1. 依頼講座数 : 18講座(講師16名)
2. 高田高校実施 : 13講座(事前学習講座1講座を含む)
三重大学実施 : 6講座
3. 実施講座内容

人文学部

- ① 法律経済学科現代経済研究 青木 雅生 教授
「よい会社とわるい会社とは一企業論入門」
7月4日(月) 15:40～17:10
高田高校視聴覚室 高5年 46名



- ② 文化学科アメリカ研究（言語学）松岡 幹就 教授
 「日本語と英語を通して見る人間言語の文法の共通性」
 7月4日（月） 15:40～17:40
 高田高校本館3階社会科教室 高5年 19名
 7月11日（月） 15:30～17:30
 高田高校本館4階大選択教室 高4年 46名



- ③ 文化学科アメリカ研究（アメリカ史）森脇 由美子 教授
 「史料からアメリカ社会を探る」
 7月11日（月） 15:15～18:15
 高田高校本館3階大会議室 高4年 41名・高11年 6名



- ④ 文化学科アメリカ研究 中川 正 教授
 「社会の法則を探る」
 7月12日（火） 15:30～17:30
 高田高校2号館3階東選択教室 高4年 50名
 7月29日（金） 9:00～16:00
 高田高校本館3階大会議室 高1年 54名



教育学部

- ⑤ 国語教育日本近現代文学 和田 崇准 教授
 「近現代の文学作品を読み比べ精読する」
 7月12日（火） 15:30～17:10
 高田高校本館3階大会議室 高4年 58名



工学部

- ⑥ 工学研究科電気電子工学専攻（電気システム工学）駒田 諭 教授
 工学研究科電気電子工学専攻（電気システム工学）山村 直紀 准教授
 「レゴを使ったロボットプログラミング」
 事前学習：7月15日（金） 13:30～14:30
 高田高校3号館3階物理室 高4年 20名・高1年 10名
 実験実習：7月25日（月） 9:30～16:00
 三重大学三翠ホール内小ホール 高4年 20名・高1年 10名



- ⑦ 工学研究科物理工学専攻（ナノ工学）藤原 裕司 准教授
 「物理基礎実験」
 8月3日（水） 13:00～16:00
 三重大学総合研究棟1 1階実験室 高11年 7名



- ⑧ 工学研究科物理工学専攻（ナノ工学）藤原 裕司 准教授
 「磁石の話」
 8月8日（月） 13:00～16:00
 三重大学工学部10番教室 高5年 34名・高3年 2名



生物資源学部

- ⑨ 生物資源学研究科生物圏生命科学専攻（生命機能化学）稲垣 稷 教授
 「ウイルス感染の仕組み」
 7月14日（木） 13:30～15:00
 高田高校本館5階講堂 高4年 109名



- ⑩ 生物資源学研究科生物圏生命科学専攻（生命機能化学）荻田 修一 教授
 「PCRによるDNAの増幅実験」
 8月18日（木） 12:30～16:30
 三重大学生物資源学部2階実験室 高5年8名・高2年8名



- ⑪ 生物資源学研究科生命科学専攻（生命機能化学）三宅 英雄 准教授
 「光るタンパク質を調べよう」
 8月22日（月） 10:30～16:00
 三重大学生物資源学部2階実験室



- ⑫ 生物資源学研究科共生環境学専攻（地球環境学）飯島 慈裕 教授
 「地域の防災・減災」
 7月15日（金） 14:00～17:00
 高田高校本館3階大会議室
 高1年 9名・高4年 37名・高2年 4名



- ⑬ 紀伊・黒潮生命地域フィールドサイエンスセンター 三島 隆准 教授
 「三重大学農場実習」
 7月25日（月） 9:00～15:00
 7月26日（火） 9:00～15:00
 三重大学附帯施設農場 高2年 6名



医学部附属病院

- ⑭ 救命救急センター 今井 寛 教授
 「三重県の救急医療について」
 7月8日（金） 15:40～17:10
 高田高校本館5階視聴覚室 高6年 1名・高5年 95名



高等教育デザイン・推進機構

- ⑮ 全学共通教育センター 太城 康良 教授
 「学医療を支える解剖生理学」
 7月14日（木） 13:30～15:30
 高田高校本館3階大会議室 高1年 19名・高4年 33名



- ⑩ アドミッションセンター 宮下 伊吉 准教授
「見つけよう、自分にあった学問分野」
7月19日(火) 14:00～15:00
高田高校社会科教室 高1年 35名

【皇學館大学】

○出前授業

- ① 文学部コミュニケーション学科 Christopher Mayo 教授
「日本史で英語を話してみる。」
7月8日(金) 15:30～17:00
本館3階社会科教室 高11年 14名・高1年 16名

- ② 文学部コミュニケーション学科 高沢 佳司 准教授
「思考のクセ、かたよりをほぐしたい時は」
9月28日(水) 15:50～17:00
本館3階社会科教室 高1年 23名



- ③ 文学部国史学科 松浦 光修 教授
「天才・本居宣長の勉強法」
9月30日(金) 15:40～17:00
本館3階社会科教室 高1年 27名



○皇學館大学ミニオープンキャンパス

8月2日(火)

- | | |
|-------------|------------------|
| 10:30 | 大学集合 |
| 10:30～11:30 | ※模擬授業(希望で1講座を受講) |
| 11:30～12:10 | 昼食休憩 |
| 12:20～13:00 | 大学説明 |
| 13:00～14:00 | キャンパス散策・各施設見学 |
| 14:00 | 解散 |

※模擬授業

- ・文学部コミュニケーション学科 中山 真 准教授
「大学で学ぶ心理学～あなたは心理学を誤解しているかもしれない～」
- ・教育学部教育学科 渡邊 賢二 教授
「子どもの自己肯定感を育むには」
- ・現代日本社会学部現代日本社会学科 岸川 政之 教授
全国で行う地域活性化から学ぶ「わくわくしながら地域を元気にしよう！」



【豊田工業大学】

以下の日程で2講座を実施

- ① 工学部機械システム分野固体力学研究室 椎原 良典 准教授

「いのちをまもる破壊の科学」

10月21日(金) 15:45~16:45

高田高校3号館物理室 高II年 8名・高I年 3名・中3年 3名



- ② 工学部電子情報分野情報記録工学研究室 栗野 博之 教授

「最先端エレクトロニクスの基本は電磁気学」

11月18日(金) 15:45~16:30

高田高校3号館3階物理室 高II年 9名・中3年 10名



【名古屋市立大学】

以下の日程で4講座を実施

- ① 総合理工学部自然情報系 田中 豪 准教授

「ヒトの色覚とデジタル画像処理(色覚バリアフリー化色変換)」

10月24日(月) 15:50~17:20

高田高校本館3階社会科教室 高II年 11名・高I年 6名



- ② 経済学部マネジメントシステム学科 出口 将人 教授

「なんでもあり」の経営学

10月26日(水) 15:45~17:15

高田高校本館3階社会科教室 高III年1名・高II年10名・高I年10名・高4年1名



③ 薬学部医療機能薬学病態生化学 服部 光治 教授

「薬学部で行う、脳と遺伝子の研究」

10月28日(金) 15:45~17:15

高田高校本館5階視聴覚教室 高11年6名・高1年25名・高5年10名・高4年2名



④ 人文社会学部国際文化学科 山本 明代 教授

「20世紀の歴史からみる難民と難民支援ー1956年ハンガリー革命の難民たち」

11月16日(水) 15:40~17:10

高田高校本館3階社会科教室 高6年1名・高1年4名・中3年3名



【鳥羽水族館】

毎年恒例のウニの発生実験を鳥羽水族館内の研修室で行った。

8月25日(木)・26日(金) 8:30~16:00

高5年 50名・高11年 13名

実施内容：その場でウニの受精卵を作成し、細胞分裂しウニが発生していく様子を顕微鏡で観察する。また水族館のバックヤードの見学をし、水族館の役割の一つである生物の保全や調査研究の最先端に触れる。



【部活動の推進】

部活動は、学年や学級を超えて共通の興味と関心を追求する中で体力や技術の向上はもとより、マナーやルールを守る社会性を身につけ、自らの意思で参加するという自主性を養い、活動を通して個性の伸長を図ることを目的とする教育活動の一つです。

集団活動の中で協力することを学び、より高い水準の技能や記録に挑戦する中で、部活動の楽しさや喜びを感じ、学校生活に豊かさ

をもたらすだけでなく、生涯にわたってスポーツ・文化・芸術・科学に親しむ豊かな人間性を培うことを目指し、継続的に取り組んでいます。

中学生においては人間形成をするうえで重要な時期であるため、継続して続けることに関して部顧問と密接に連携し、自分を律し他人を思いやることや社会のルールを学ぶ一助としています。

主な活動実績はつぎの通りです。

令和5年3月現在のクラブ活動所属生徒数				
高等学校	文化部	22部	522名	(男161名・女361名)
	運動部	17部	601名	(男356名・女245名)
	生徒会直 属部、同好 会、愛好会	9部	155名	(男48名・女107名)
	計1,			278名
中学校	文化部	9部	178名	(男92名・女86名)
	運動部	11部	371名	(男215名・女156名)
	生徒会直 属部、同好 会、愛好会	7部	30名	(男2名・女28名)
	計			579名

活動実績

高等学校

運動部	インターハイ 全国大会出場	男子卓球部・女子柔道部・馬術部・なぎなた部
	その他東海大会出場	陸上部・剣道部・女子バレー部・新体操部・女子卓球部・男子柔道部
文化部	全国大会出場	文芸部(団体優勝)・箏曲部・将棋部・放送部・囲碁同好会

中学校

運動部	全国大会出場	なぎなた部(JOC演技の部優勝)
文化部	全国大会出場	放送部



【体育祭】

6月8日（水）・10日（金）に新型コロナウイルス感染拡大状況を鑑み、昨年同様、学年別で開催されました。熱中症対策と新型コロナウイルス対策との両立に心配もありましたが、教員、生徒の皆さんの協力のもと、安全に行うことが出来ました。

【芸術鑑賞】

6月15日（水）・16日（木）には3年ぶりに三重県総合文化センター中ホールにて芸術鑑賞が行われました。中学生、高校生共に、「劇団うりんこ」による「わたしとわたし、ぼくとぼく」を観劇しました。初めて本格的に演劇に触れる生徒も多く、とても有意義な1日となりました。

【文化祭】

9月13日（火）は3年ぶりにクラス展示・模擬店を行うことが出来ました。保健所指導のもと、コロナウイルス感染拡大防止対策として、食事場所をアーケードやグラウンドに設置するなど工夫し、生徒達は非常に楽しんでいました。9月14日（水）と15日（木）は、高校生の学年を分け、2日間同じ演目で体育館発表が行われ、部活動の発表や個性豊かな有志の発表で盛り上がりました。14日には「タイムマシーン3号」15日には「土佐兄弟」によるお笑いライブも開催され、生徒も大変喜んでおりました。中学生は講堂で、部活動や有志の活発な活動が見られました。コロナ禍で人と関わることを制限されて3年目、再び行事を通して、協力や団結の大切さ、芸術に触れる豊かさ、1人1人のもつ素晴らしい能力を発揮する機会の重要性を感じました。また、今年度より体育館にクーラーが設置され、快適な環境で鑑賞することが出来ました。

【危機管理・安全教育への取り組みの推進】

火災、地震など予測不可能な緊急事態が発生した場合、発生時に冷静な判断力、速やかな行動力を発揮できるよう、防災意識の高揚に取り組むべき事業を展開しています。

近年は想定をはるかに超える豪雨災害が頻発するなど、防災教育の重要性はますます高まっています。本校ではこのような予測不可能な緊急事態が発生した場合でも、災害に対する正しい知識に基づき、生徒が自ら冷静な判断力、速やかな行動力を発揮できるよう、防災教育に取り組んでいます。また、防災用品として昨年度導入した非常用リチウムイオンバッテリーにより停電時にも迅速に対応できる体制を整えています。今年度は4月27日（水）に津波対応避難訓練を行いました。

危機管理の取り組みとしては、学内機密情報の保護のため、パソコンや端末記憶装置の持ち込み等について、取扱規則を定めて個人情報の漏洩及びウイルス等の感染がないように、周知徹底を図っているほか、インターネット上での誹謗中傷等の書き込みなどにも傾注しています。

保護者への連絡手段としては、「あんしんネット」、「きずなネット」等により、最新情報を随時的に提供しています。

感染症対策として、令和4年度学校保健特別対策事業補助金を利用してUV-C空気殺菌器を本館1階応接室1・2に各々1台、本館5階講堂に2台、合計4台導入しました。

学校安全・生活指導、保健計画の推進

令和5年4月から「道路交通法の一部を改正する法律」（令和4年法律第32号）により、全ての年齢層の自転車利用者に対して、乗車用ヘルメットの着用の努力義務が課されます。本校では学校安全管理の立場から、令和5年度よりすべての自転車通学生に対してヘルメットの着用を義務付ける予定です。それに伴い、3月15日（水）にJAF日本自動車連盟三重支部の職員に来校していただき、「ヘルメット着用の必要性」について、全校放送による啓発活動を実施しまし

た。本校は約750名の生徒が自転車通学をしており、学校周辺は狭い道路や見通しの悪い交差点が多いこともあり、事故をおこさないよう日頃から基本的なルールや事故の悲惨さを訴え知識や技術の向上に努めるとともに、生徒と教員が街頭登下校指導をするなど、マナーアップや安全意識の高揚にも傾注しています。このほか、社会生活面において、4月12日(火)にはスマートフォン・タブレットの使用マナーやネットワークにつながることの利便性、SNSの危険性に関する「スマホ・パソコン安全教室」を開催し、10月8日(土)には高Ⅲ・6年に向けて「薬の正しい使い方」と題して、学校薬剤師の秦賢司先生による薬物乱用防止教室を実施しました。

また、18歳より選挙権が与えられたことにより、2月22日(水)に村林法律特許事務所へ依頼し、高校Ⅱ年生および5年生を対象に「有権者としての心構え等について」をテーマに講演を実施し、主権者としての自覚と選挙への意識の高揚を図りました。

コロナウイルス感染拡大防止対策

令和元年12月初旬に中国の武漢市で新型コロナウイルスの第1例目感染者が報告されてから、4年目を迎えました。世界中を席卷した流行期から顧みると新型コロナウイルスへの対応も少しずつ変化をしてきました。令和5年5月8日より感染症法上の位置づけも2類から5類に変更される見通しとなりました。しかし、本校における新型コロナウイルス感染症防止対策としては、継続して毎朝の体調チェックをC l a s s iのアンケート機能を利用して報告し、マスクの着用、手指消毒、換気を心掛けるなど生徒、教職員共に取り組んでいます。昼食時には、生徒は教室内での黙食、教職員は大会議室にパーテーションを設置し昼食場所としています。正面玄関および各校舎の生徒昇降口にスタンド型足踏み式のアルコール消毒液を設置し、各教室にもアルコール消毒液を設置し適時補充を行っています。さらに昨年度は、コロナウイルスの殺菌に有効とされているUV-Cの室内空気殺菌器を4台購入し保健室と大会議室に設置しました。オゾン除菌脱臭装置も15台購入し、体育館学生ホールに4台、職員室横学生ホールに4台、職員室に6台設置しました。今後は、コロナウイルス感染拡大のみならず学校における感染症の予防、拡大防止務めるべく、新しく正しい情報を提供できるよう情報収集に努めていきたいと思っております。

【国際理解教育推進】

目 的	国際感覚豊かな人間育成のため、授業や諸行事に参加しながら異国の学生生活を体験し、友好を深めること。 互いの生活習慣や文化を学び、今後の交流振興に貢献すること。 受け入れ家庭が、生徒とともに学び、生活することにより異文化理解を深めていくこと。
-----	--

オーストラリア交換留学

平成6年(1994)より実施しているオーストラリアのセントモニカ校・パレード校との交換留学は、残念ながら令和2年3月(訪豪)以降、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止しています。

イギリス語学研修

イギリス語学研修は、現地の語学学校のインターナショナルクラスで他国の生徒とともに学ぶ英語学習を主眼に置いた研修プログラムで、中学3年生・高校生を対象に実施しています。

また、研修中はホームステイをすることにより、英語の運用能力の向上や英語学習へのより一層の動機付けを促し、学習意欲を育むだけでなく、他国の生徒との交流が国際人としての感覚を養うこととなっています。

残念ながら、令和2年度以降、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止しています。

イングリッシュ・キャンプ

本校ALTに加え、外部からのゲストALTを講師として迎え、高校1年生Ⅱ類・特別選抜クラスの生徒を対象に「イングリッシュ・キャンプ」を実施しています。

生徒達は、オール・イングリッシュで様々なアクティビティに参加したり、1学期に授業を通して準備してきたプレゼンテーションを保護者参観のもと発表したりして、英語や異文化への興味・関心を深め、スピーキング力をも高める良い機会となっています。

令和4年度は新型コロナウイルス感染拡大防止に留意しながら、2年ぶりに実施することができ、生徒同士が親睦を深めながら、日頃の学習成果を存分に発揮しました。



「Inspire High (インスパイア・ハイ)」サービスの導入

本年度は、経済産業省が実施する「EdTechソフトウェア・サービスの導入実証事業」に採択された「Inspire High」サービスを試験導入いたしました。これは、アーティストやビジネスリーダー、研究者など、第一線で活躍し、自分の人生を楽しむ様々な大人から、自分の世界を広げるインスピレーションをもらう、13歳～19歳のためのオンラインラーニングコミュニティです。

新しい時代に必要な資質・能力を身に付けていくためには、英語を学ぶだけでなく、実社会での課題解決に生かしていくために必要な教科横断的学び（STEAM教育：S・サイエンス、T・テクノロジー、E・エンジニアリング、A・アート、M・マセマティクス）を探究すること、加えてテクノロジーを活用することは欠かせません。

高校1年生Ⅱ類の英語授業や人権教育授業のなかで、英語を用いて展開されるクリエイティブでワクワクするテーマを取り扱いながら、生徒達が自分自身の在り方・生き方について考えるコンテンツとして有効に利用することができました。



「With The World (ウィズ ザ ワールド)」サービスの利用

高校1年生Ⅱ類・特別選抜クラスは、英語コミュニケーションⅠが1単位多く設定されており、2学期はSDGs学習に取り組みました。そして、学んだことを活かすため、3学期にオンライン国際交流授業（グローバル探究学習）を提供する株式会社 With The Worldのサービスを利用し、カザフスタン、ベトナムの中高生たちとグループ・ディスカッションを行いました。国境を越えて共有すべき課題と、国によって異なる考え方を共有するいい機会となりました。



教職員海外研修

教職員の海外研修の成果については、職員会議・学校校報・研究紀要において報告を行い、他の教員と情報共有することで教員全体の意識向上を図っており、その成果が生徒へ還元されていくことで、教育の質の向上につなげています。

令和4年度本校におきましては、新型コロナウイルス感染拡大状況を鑑みて、教員の派遣は行いませんでした。

学校自己点検・学校関係者評価

学校自己評価

学校自己評価については、例年「学校の教育目標や教育活動の内容・方法、教育成果、学校の管理運営などについて、より一層の教育活動の充実を図る」という趣旨で教育活動全般にわたる自己点検・評価を行い、継続的な改善更新、改革を図っています。

令和4年度の目標	
目指す学校像 (教育理念)	生徒・保護者・社会の期待に応え、伝統を重んじ信頼される私学を目指す。 校訓「言行忠信 表裏相応」の精神のもと、人間性豊かな人材を育成する。 崇高な志と社会に貢献できる人材を育成する。 自分の夢の実現に向けて、自ら学び、自己を律し、行動できる人材を育成する。
重点努力目標	人権・同和教育の推進、進路指導の徹底、基本的生活習慣の確立、規範意識に則った行動力を育成する、学力の向上と充実錬磨に努める、環境を大切にし、世界に貢献できる人材の育成に努める。
点検・評価の日程	
令和4年 6月	前年度学校自己評価への評価結果報告及び継続的取組の促進
令和4年 12月	評価項目の確認と評価方法の決定
令和5年 3月末	評価実施
令和5年 4月	集計と分析
令和5年 5月	職員への結果の公表、評価結果の公表

授業アンケート

生徒がよい授業を受け、学力向上につなげるには、教員一人ひとりが授業改善に取り組む必要があります。教員自らが自分の授業を振り返り、自らの課題について分析できるよう生徒による授業アンケートを2学期後半に実施し、各教員に詳細を知らせるとともに、保護者には概要を令和5年3月に公表しました。

学校関係者評価委員会

自己評価や保護者、学校関係者による評価の実施・公表により、適切に説明責任を果たすとともに、保護者や地域住民からの理解と参画を得ながら、学校・家庭・地域の連携協力により生徒の穏やかな成長を図り、健全な学校づくりを推進することを目的としています。

なお、評価委員は委員数8名（教育関係者、地元企業、地域自治会、保護者会）から成り立っています。

新型コロナウイルス感染拡大を懸念し、令和4年度の評価委員会は中止としました。

教職員資質向上への取り組み（初任者研修、校内研修、中部私学研修、中堅研修など）

教育を取り巻く環境が大きく変化する中で学校教育に対する期待に応えるには、教員の資質能力向上とスキルアップが必要なため、それに対応できる教員研修を推進していきます。

多種多様な資質能力を持つ人材の集まりである教員集団が連携することにより充実した教育活動が展開できることから、その能力の保持のためにも研修は重要と考えられます。

研修については、これまでの自分自身の教育活動を振り返るとともに、教育界の最新情報を理解して将来への課題を自覚し、これからのリーダーシップを発揮するためのものです。

本校のほとんどの生徒が大学進学を希望していることから、大学ごとの入試問題検討会にも積極的に参加し、大学によって毎年変更される問題傾向や入試情報を少しでも生徒に有利な環境に導くべく把握に努めています。

また、公立中学校へ出向いて行う模擬授業は、本校教員の資質を問われる関係上、普段以上の緊張感で接し、より自分自身の研究も必要となり、教員としての資質向上につながっていくものと考えられます。

新規採用者は、採用年度に学校の教員としての適性を考える機会として、職務の遂行に必要な実践的指導力と使命感の修養ならびに幅広い知見の習得及び教育指導の充実を図るための課題の解決等を目的に外部研修に参加し、モチベーションを高めています。さらに、本校においても独自に指導教員が生徒との接し方や指導方法、事務的内容を伝授し、教員として一日も早い自立を目的として、年間10回の研修を実施しており、終了後は受講についてのアンケートおよび校長や教頭を囲んでオフサイトミーティングを行い、翌年度の実施計画案に役立てています。

令和4年度 初任者研修 年間計画表

	研修テーマ	実施日時	担当者	研修場所	備考
1	初任研OR	4月 8日(金) 11:00~11:50	高梨	4号館会議室	教頭
2	高田の歴史と建学の精神について	4月11日(月) 14:40~15:30	学校長		学校長
3	学校法人の規定について	4月13日(水) 14:40~15:30	加藤		事務局長
4	コンプライアンス (服務規程と教育法規)	4月14日(木) 16:00~16:50	宇河		副校長
5	教職の実務 中・高の教務	4月18日(月) 15:40~16:30	谷口		教務部長
6	生徒指導	4月25日(月) 15:40~16:30	福山		生徒指導部長
7	進路指導	4月27日(水) 15:40~16:30	伊藤フ		進路指導部長
8	人権教育推進	5月 2日(月) 15:40~16:30	鈴木		人権教育委員
9	学校の危機管理	5月 9日(月) 15:40~16:30	古川		教頭
10	特別支援教育・カウンセリング	5月13日(金) 15:40~16:30	的場・松尾		養護教育・学校カウンセラー

このほか、中堅以上の教員についても、これからの学校をリードするための知識や能力を養うため例年外部研修会にも参加していますが、今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止により、派遣は見合わせました。

今後もしできる限り外部の講習会や研修会、出前授業に積極的に参加し、学校内では得ることのできない情報を吸収することで、新人からベテランまで教員としての資質向上に役立てていきたいと考えています。

【生徒募集活動】

高田中・高等学校公開イベント

小学生を対象とした「学びのひろば in 高田」

地域交流事業の一つとして、小学生（４・５年生）を対象とした公開講座「学びのひろば in 高田」を年２回開催します。昨年より、従来の「算数オリンピック」だけでなく、他教科もオリンピックを実施しており、様々な分野に興味関心を持つ児童たちを募集したいと考えています。また、各講座で、探究する楽しさを児童たちと共有しながら、本校の魅力や情報の発信にも努めています。今年度の参加児童数は、８月２７日（土）は９３名、２月１１日（土・祝）は９５名でした。児童たちは、真剣な表情でオリンピックの問題にチャレンジし、各講座におけるゲームやクイズ、散策、作品作りなどの企画にも意欲的に取り組み、有意義な時間を過ごすことができました。

学びのひろば in 高田		
日時	８月２７日（土）	令和５年２月１１日（土・祝）
テーマ	① たかだ夏季理科オリンピック 「知力を競え！科学アスリート」 ② 英語「英語であそぼう」 ③ 仏教「歩いてみよう高田本山」	① たかだ冬季社会オリンピック 「地理と歴史の迷宮（ラビリンス） ～三重を制覇せよ～」 ② 国語「小説の世界に触れよう 心情あてクイズ～」 ③ 美術「マーブリングを楽しもう」
定員	１０８名	１０８名



中学校入試説明会

本年度は、９月２３日（金・祝）に、小学６年生の児童とその保護者を対象とした「中学校入試説明会」を開催しました。新型コロナウイルス感染拡大状況を鑑み、午前と午後の２回に分けて実施しました。午前の部は、１９４組の家族が参加し、午後の部は、８４組の家族が参加しました。学校概要に加え、各教科からも入試に関する説明を行いました。

その他の生徒募集活動としては、広くマスコミを利用した広報活動や、塾を対象とした説明会を積極的に実施し、各地域で開催される私立中学展にも参加し、PRに努めています。



高等学校公開イベント・学校見学会・個別見学会

高等学校生徒募集活動では、各中学校で行われる入試説明会に参加し、また教員が各中学校を訪問し受験生と保護者に対し、入試や本校の教育内容について最新の情報を詳細に説明しています。

学校見学会は、2年の間コロナウイルス感染拡大により開催ができませんでしたが、今年度はコロナウイルス感染拡大防止対策で4回に分け開催を計画しました。第1回（8月20日）・第2回（8月22日）・第3回（9月18日）は、各回約330名、計約990名の受験生と保護者の方々に、ご来校いただきました。第4回（9月19日）は、台風の影響により中止としましたが、10月2日に代替の日を設け開催しました。どの回も申し込み初日で募集定員が満席となってしまう状況で、大変人気のイベントとなっています。

個別見学会については第1回（10月29日）・第2回（11月5日）・第3回（11月19日）の土曜日に例年通り開催することができました。約500名の中学生、保護者が来校されました。

どちらも本校の良さを理解していただけるよう、詳しい学校説明や校内見学・部活動見学等を行っています。

なお、経済的不安を抱えられている家庭については、国や県の就学支援制度などを活用することで、安心して教育が受けられる体制を整えていることをアピールしています。

Web出願

昨年度より高校入試において導入したWeb出願システムにより、スマートフォン等の電子機器での手続きが可能となりました。これにより志願者は出願期間中であれば時間の制約なく登録できるようになっただけでなく、受験料もクレジットカード等での決済ができるようになりました。

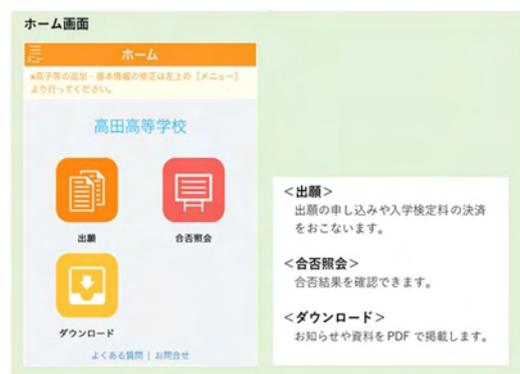
学校側も今まで紙面で提出されていた願書等出願時の書類をデータで処理できるようになるため、入試処理作業の負担が軽減することができただけでなく、各中学校側としても志願者の出願状況がシステム上で把握でき、本校への入試に関する書類の提出もデータで行うことができるため、以前に比べ非常に利便性が向上しました。

今年度は中学校入試においてもWeb出願システムを導入しました。志願者が入力した出願データを利用し、受験票作成等の入試処理業務ができるようになり、高校と同様に業務効率が飛躍的に上がりました。

出願フォームにアクセス



QRコードの読み取り または
<https://lsg.grapecity.com/mic-takada-hj/app> を入力し、
Web出願フォームにアクセスしてください。



【施設整備の整備事業実績】

J R 一身田駅周辺通学路グリーンベルト整備工事

施工業者 : (有) 松村土木 (株) 北斗エス・イー・シー
施工費用 : 7, 870, 000円
施工時期 : 7月20日～8月30日

第1・2・3体育館エアコン設置工事

施工業者 : 藤原工業(株) (株) 中部都市設計建築事務所
施工費用 : 140, 632, 800円
施工時期 : 7月2日～令和5年1月9日

採点ナビ

購入業者 : (株) 教育ソフトウェア
購入費用 : 1, 650, 000円
購入時期 : 10月14日

鉄棒(西グラウンド)

施工業者 : ヨシダ運動具店
施工費用 : 703, 000円
施工時期 : 9月27日

J R 一身田駅周辺通学路グリーンベルト



第1体育館エアコン



鉄棒(西グラウンド)

